

東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会記録

平成30年12月18日(火)午後1時32分～午後2時03分(9階908会議室)

○出席委員(11名)

委員長	高木 克尚	副委員長	尾形 武
委員	沢井 和宏	委員	二階堂 武文
委員	鈴木 正実	委員	根本 雅昭
委員	小松 良行	委員	村山 国子
委員	小野 京子	委員	山岸 清
委員	渡辺 敏彦		

○欠席委員(なし)

○議題

- 1 意見交換会について
- 2 委員長報告について
- 3 その他

午後1時32分 開 議

(高木克尚委員長) 本日は、12月定例会議最終日大変ご苦労さまでございました。ただいまから東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会を開会いたします。

議題は、お手元に配付の印刷物のとおりであります。

まず、意見交換会についてを議題とさせていただきます。

初めに、皆様にご報告をさせていただきます。前回委員会終了後、11月30日に正副委員長で福島成蹊高校を訪問し、本田校長先生へ正式に共催依頼をし、ご了承をいただいております。その際に、成蹊学園としてはなるべく早く参加者の募集を開始したいとのご意向をいただきました。あわせて、市に対しても共催依頼を行い、市を通して公認プログラムの申請を行い、正式に認証を受けました。公認プログラムとなったために、次は公認マーク入りのチラシの使用申請が必要となりますが、マークの使用申請から承認まで時間がかかります。成蹊学園になるべく早くチラシをお配りし、参加者の募集を開始するため、正副委員長手元で前回お示したチラシ案を調製し、公認プログラムのマークなどの使用申請を行わせていただきましたので、ご了承願います。

それでは、意見交換会について協議を行いたいと思います。今後、意見交換会の内容を決定していきたいと思いますが、本日は意見交換を行う内容をまとめたシートについて協議したいと思います。

お手元にお配りしております資料1、それから資料2をごらんになっていただきたいと思います。資料1はワークシートですが、資料1、資料2を両方見ながら説明を聞いていただきたいと思います。

資料1のワークシートについて、ワークシートの取り扱いになりますが、シートは参加者が決定次第、当日の流れやシートの説明とあわせて事前に配付をさせていただきたいと思います。

資料1のワークシートの時間軸についてであります、中段の矢印が時間軸です。2019.3から20XX年まで。右側が未来をあらわすという意味でございます。

シートの構成についてであります、全体の左半分が第1部となる2020年までのお話、右半分が第2部となる2020年以降のお話、そういうシート構成にさせていただいております。

そこで、参加者の事前記入をお願いしたいということで、シート内の背景が白の箇所、空白になっているところですね、この空白のところに参加者の事前記入をお願いしたい。例えば裏を見ていただくと、2020年の私、未来の私ということで、どんな自分の姿を想像できるかということを書かせていただく。これはあくまでも高校生になり切った気持ちで書かせていただきましたが、このとおりに言っただけかどうか、それはちょっと定かではありませんが、現在と未来、自分の姿を想像していただくと、こんな形であります。下段のほうは、自分とオリンピックあるいはパラリンピックとのかかわり方について考え方を述べていただくと、そういう構成にさせていただきました。

これがワークシートの構成についての内容であります。その上で、資料2に戻っていただいて、当日の進め方、素案であります、まず全体でワークショップの前に一定程度説明をさせていただきたい。実は改訂版のガイドブックが完成しましたので、ガイドブック、我々も含めて生徒さんにもお渡しをして、眺めていただく。その上でオリンピックやパラリンピックの基本的な内容を理解していただいたり、それからこれは前から皆様にお諮りしてまいりましたけれども、東日本大震災の際の世界各国からの支援とそれに対する感謝と復興へ歩む姿を発信するため、復興五輪という位置づけで今回は行うのということです。あるいは、公認になりましたけれども、公認プログラムとして意見交換会を開催する意義などについて、前段ワークショップに入る前に説明をしていただく。当然私が開会冒頭の挨拶でも若干触れさせていただきますが、各グループに分かれる前にもいま一度今回の意義について説明をさせていただきたいと思っております。

その上で各グループに分かれてワークショップが開始となります、この中で第1部、第2部に構成を分けていただいて、まず第1部は事前に記載していただいたこの資料1のワークシートの下段の左の欄について子供たちから発表していただく。全員が発表を終えたら、他の方の意見に対する考え方を促していきたい。

第2部に移って、第1部で出た意見から2020年以降の福島にとってのレガシーになり得る意見をチョイス、選び出していただいて、それをどう生かしていくか全員で協議をしていただきたいと思います。具体的にはシート下段、右の欄の回答、記載の内容についてお話をさせていただくと。

最終的に各グループごとに発表という段階になりますが、第2部の結果を発表していただきます。

その中では、第1部で出た意見なども説明をしていただいで結構でございます。基本的に発表は生徒にお願いをしたいと。

こんな当日の進め方の案でございますが、皆さんからご意見があればお伺いをしたいと存じます。

(渡辺敏彦委員) これは、成蹊の打ち合わせしたときに持って行って、向こうでも納得したのですか。こういうふうにつくっただけ。

(高木克尚委員長) こういうものがあれば向こうも共通した話題づくりが可能になるのかなということで、こちらから持っていくことになります。

(渡辺敏彦委員) 打ち合わせのときには、先生は全然わからないのだね。

(高木克尚委員長) まだわからないです。

(渡辺敏彦委員) これからだね。

(高木克尚委員長) はい。この前お邪魔したのは、あくまでも共催何とかお願いしますということで行ったものですから。あくまで当委員会として皆さんからいろんなご意見をいただいて、やはり時間軸でやっていこうということで、こういうワークシートをつくらせていただきましたので、過不足あればぜひ発言をいただきたいのですが。裏の想定した子供たちの意見はまるっきりこちらの大人としての考え方なので、現実的にはどんな考え方が出てくるかさっぱりわかりませんが。成蹊高校と打ち合わせをしながら、ワークシートの説明の別添用紙なんかはつくらなければならないのかなと思いますけれども。これだけ出して、はい、書いてと言っても、素直に理解されるかどうかちょっとわかりませんが。よろしいですか。こんな形で成蹊高校側ともう一度打ち合わせをさせていただきますので、ご理解をいただきたいと思います。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) それでは、そのようにさせていただきます。

次に、委員長報告についてを議題とさせていただきます。

前回の委員会で、七尾市への行政視察などから委員長報告へ取り上げるべき項目について皆さんからご意見をいただきましたが、その意見をもとに正副委員長手元で委員長報告の提言部分の案を取りまとめましたので、その内容をお諮りしたいと思います。

お配りしました資料3をごらんください。今回2つの提言案としておりますが、まず1点目は、スポーツ合宿の誘致にあたっては、本市単独ではなく、福島圏域連係推進協議会など、広域での受け入れ体制を構築すべきとさせていただきます。

こちらについては、前回の委員会で、市内の既存施設でもパークゴルフ場など合宿誘致の可能性のある施設もあるとのご意見や、他市町村との連携も重要ではないかとのご意見がございました。

また、市当局はスポーツ合宿誘致に取り組むとしており、前回の委員会でのご意見でも、合宿誘致により温泉が潤えば、市全体にもメリットが考えられること、仮に学生の合宿は単価が安くても将来リピーターとなることも期待されるなど、合宿誘致に取り組むべきであるとのご意見を多くいただい

たことから、合宿誘致を推進することを前提としてこのような提言案とさせていただきます。

2点目は、オリンピックの開催で高まったスポーツへの関心やボランティアへの参加意欲を持続、強化し、交流人口の増加を図るため、2020年以降も全国規模のメモリアルイベントを開催していくべきとさせていただきます。

この提言については、前回の委員会で、七尾市はテニスの合宿誘致もしておりましたが、テニス大会も開催をして、全国から参加者が来ており、そのようにオリンピック開催後もスポーツイベントを開催し続けることも必要とのご意見をいただきました。

また、前回ご意見にはごさいませんでしたけれども、七尾市と同じく行政視察を行った長野市では、オリンピック開催以降、オリンピック記念マラソンを開催しており、全国から多くの参加者が訪れているだけでなく、オリンピックの際に活躍したボランティアが継続してかかわり、活躍の場となっているとのことであります。

これらのことから、スポーツやボランティアの機運がオリンピックで終わらず、持続できるよう、スポーツイベントを行っていくべきであるとの提言とさせていただきます。

以上が前回の委員会を踏まえての提言案であります。最終的な委員長報告については意見交換会を終えた後にまとめることとなりますが、これまでの調査を踏まえた提言案として、今ご説明した内容について皆様のご意見をお伺いしたいと思います。ご発言をお願いします。

(小松良行委員) (1)の部分なのですが、これ多分2つというのは、1行目からの受け入れ可能な規模、条件等の拡大を図ることがまず本市としての、あわせて福島圏域連携推進協議会といったことでの広域連携ということの2本立てなのですが、ここ条件等の拡大のため、本市のみならずという、何か……

(高木克尚委員長) ありきになってしまうね。

(小松良行委員) うん。だから、まずは規模、条件等の拡大を図ること、また本市のみならずとかということで一旦切らないとだめなのではないかなとちょっと読んでいて思ったのですけれども。

(高木克尚委員長) 市の管轄施設が充実図れないので、周りの工夫というのも一義的にはおかしいかな。

(村山国子委員) いえいえ、違います。私はこれでいいかなと思います。

(山岸清委員) 私も提言内容はこれでいいと思うのですが、先ほどおっしゃったように、意見交換会が23日なのだよ、成蹊との。ここに書いてある提言は、やっぱりこれを実行してもらうのに当局にも早く提言したほうが準備期間もあっていいかと思うから、そうすると23日の意見交換会をまとめて、最終日は26日なのだけれども、26日にも提言すると言ったのだけれども、お伺いは。

(高木克尚委員長) 6月です。

(山岸清委員) では、いいです。俺3月にやってしまうのかなと思ったから、大変だな、1日、2日です。

(高木克尚委員長) では、ただいま2名からご意見があった(1)の提言内容について、どうでしょうね。条件等の拡大や本市のみならずと。文言上、大丈夫ですか。

(鈴木正実委員) 拡大や本市のみならずになるのですか。

(高木克尚委員長) おかしいかい。

(鈴木正実委員) ちょっと変ではないですか。

(高木克尚委員長) 拡大で、切ってしまう。そうすると、村山委員の危惧がここに含まれてしまうので。

(鈴木正実委員) 切らないのが一番素直な読み方になるのかなと思いますけれども、文章とすれば。受け入れるためだけではなくて、やっぱりスポーツのまちづくりということも一つ市のほうでは提言の素材になっているわけですから、七尾でもそうだったのですけれども、この間相馬行ったときにもそうだったのですけれども、結構サッカーの有力校とか、いろんなチームが来て、サッカーばかりに限らず、合宿に。そのときに地元の高校と交流試合みたいなのやったりして、結局地元の高校のレベルとかも上がっているのです。ですから、有力校の誘致により地元のスポーツの能力を高めるとか、何かもうちょっとレベル上げるのだとか、そういうくだりもあっていいのかなという感じするのですけれども。

(村山国子委員) 自前のスポーツ振興みたいな。

(鈴木正実委員) そうそうそう。だから、高校スポーツの全国で活躍できるチーム育成の原動力になるのだとか、そういうような文言が入っていてもいいのかな。七尾もそうだったですし、相馬でも、鹿児島の実業高校が七尾あたり来たりしているとか、そういう有名どころ……

(高木克尚委員長) 逆に待っているだけではなく……

(鈴木正実委員) 強豪校も来て、それが地元でのスポーツ能力を高めるような、そういう働きもこの合宿には求めているというところも必要ではないかなという気がするのですけれども。

(小松良行委員) (2)のほうで交流人口の増加……

(村山国子委員) (2)にも含まれているのですね。

(鈴木正実委員) 交流人口は、要するにスポーツ合宿と結びつけてという意味合いのほうがいいのかなと思っていたのです。

(高木克尚委員長) 招聘だよな。

(鈴木正実委員) 単純にスポーツ合宿誘致するのではなくて、有力チームに来てもらって、地域全体の能力を向上させるとか。こっちだと大会のほうの意味合い強くなるのであれば、合宿の一つの効用として他のチームが来て福島県内のレベルを上げる、それに一役買うのだというような表現というのですかね。

(小松良行委員) メモリアルイベントとかの開催とかに包含されていないかな。

(鈴木正実委員) いや、そっちだと大会になってしまう。

(高木克尚委員長) 技術力向上のためには強いところに来てもらいたいとなる。

(鈴木正実委員) だから、合宿、目指すべきである、さらに有力校を呼ぶことによって地域のスポーツ振興というか、スポーツの活性化を図っていくとか、そういうような一文だけでも前に入ったほうが。

(村山国子委員) それが目的ではなくて、結果としてそういうふうになったという感じでしょう。

(鈴木正実委員) だから、さらにそういうこともやるべきだという。

(高木克尚委員長) 学生ばかりではないから。ほかの団体もあり得るから。どこにどう表現するかだな。でも、今鈴木委員のおっしゃっていることは皆さん理解していただけますね。技術力向上のためにはやっぱり強いところも来てもらわないと。ただ夏休み過ごすだけで来てもらうのではなくて。

(鈴木正実委員) ただ単純な合宿だけではなく、合宿で相手チームが強くなるのではなくて、実は地元もその力を入れて有力な地域になっていくのだというようなところとか、何か含みそうな気がするのですけれども、合宿の中に。

(小松良行委員) このまとめ方、基本的に個別具体的なことは言っていないのだから、今のお話は当然必要なことだと思いますけれども、先ほど言った交流人口や(2)番のメモリアルイベントとかというところに比較的包含されるような感じはする。あと、1番だってスポーツ合宿誘致にということであるので、個別具体的な事業をここに書いてしまうともっともっと書くようになってしまわないかなと思うのだけれども。

(村山国子委員) 1番も2番もスポーツ合宿誘致、そして交流人口ということで、福島市民が主体というのが入っていないので、(1)で福島市民のことをまず書いて、それから(2)をやって、(1)を書くといいのかなというふうに思うのですけれども。交流人口でほかの人たちのことばかりしか書いていないでしょう。だから、やっぱり第一義的には福島市民のスポーツの振興というのが一番先にあるのかなというのがある。

(高木克尚委員長) 結局合宿に来てもらうのだから、地元福島市民との交流も深めていただいて、なおかつ技術力向上に寄与していただきたいのだからね。

(村山国子委員) やっぱり一番は福島市民のことをまず書いたほうがいいのかという気がするのですけれども。提言、これやるときに福島未来と、こう考えたときに、合宿とメモリアルイベントだけでいいのかというふうになったら、まず福島市民を底上げをしてというか、振興を図ってというのが一番先かなという気がするのですけれども。

(小松良行委員) あくまでも委員長報告の提言内容の……

(村山国子委員) 視察に行ってきた内容ではそうなのですけれども。

(小松良行委員) これだけではないわけだね。あくまでも筋だけ……

(渡辺敏彦委員) スポーツ振興とか、強くしようというのももうちょっとないと。

(村山国子委員) やっぱりオリンピック、パラリンピックを経験して、スポーツ合宿と全国規模のメ

モリアルイベントだけでいいのかというふうになってしまうと思うのです。やっぱり市民のスポーツのそういう意欲をまずはやらなくてはいけないというのが第一かなという気がするのですけれども。

(高木克尚委員長) (2) はボランティアの交流人口だから、実技派の交流でない、(2) は。実技派は(1) か、もしくは(3) で言うしかない。

(鈴木正実委員) そののともスポーツへの関心という言葉、さっき言ったみたいな包含する言葉とすればそこにも含まれるような感じだったのでですね。

(村山国子委員) 最終的には連携でやるよというので、やっぱり1が(3) に来たほうが良いような気がするのですけれども。

(鈴木正実委員) 今渡辺さん言ったみたいに合宿で競技力向上のため、本市のみならず続けていくというような形とか、たかが2つあってもいいのかなという気がするのですけれども。要するに福島あるいは圏域のスポーツ力向上のため、本市のみならずという。

(高木克尚委員長) (1) の中に確かにたくさん来てもらうためには福島市内では足りないので、近隣等整備をしていっぱい来てもらう、そのことと地元の人との合宿交流で技術力を向上させたいのだという、2本立てでいいですか、(1) 。

(鈴木正実委員) 市民のスポーツへの関心と同時に技術力、何かそんな感じします。

(高木克尚委員長) では、そこちょっと整理正副委員長に任せていただいていいですか。

(小松良行委員) ええ、お願いします。ここでいじるとああでもない、こうでもない、大変なことになる。

(高木克尚委員長) (2) はどうでしょう、流れ的に。これは、直接スポーツをやる方に限定しないで、幅広くオリンピック以降もにぎやかさを醸し出していきたいという内容ですので。

(村山国子委員) イベントというふうに切ってしまうとメモリアルイベントだけになってしまうので、などをというふうに入れて、いろんなことを開催していきなよという意味で、などをと入れたほうがいいかなと思います。

(根本雅昭委員) これ(1) も(2) も目的が何々のためまでが目的で、後半が手段だと思うのですけれども、一般的に目的が達成されれば手段はある程度複数あると思うのですけれども、その書き方だと今村山委員おっしゃったように、メモリアルイベント、(2) だとそれのみと見えますので、手段の部分をもうちょっと幅広く、などとか何か、ほかの手段も考えられますよというような、もうちょっと広い意味での書き方にしてもいいのかなと思います。あとは、目的と手段がだんだん議論していくとごちゃごちゃになってきますので、前半目的の後半手段という書き方でしたら、ちょっとはつきりすみ分けしておいたほうがいいのかなと思いました。

(高木克尚委員長) 十分正副委員長としては意を用いて修正を図りたいと思っています。

(小松良行委員) お願いします。

(山岸清委員) 一任。

(村山国子委員) しつこいようなのですけれども、スポーツ合宿誘致にあたってはというふうになってしまうと、やっぱり主語が狭いと思うのです。だから、何でオリンピック、パラリンピックやって、これのシート見ても未来の私というふうにあるように、やっぱり福島市民のスポーツの振興というのはまず出したほうが良いと思います。

以上です。

(尾形武委員) これは七尾市の視察のまとめですので、こういう形になりましたけれども。

(村山国子委員) その部分だけを言っているの。

(尾形武委員) 七尾市のまとめなものですから。

(村山国子委員) 了解でした。

(鈴木正実委員) 項目の一つなのでしょう、これ。スポーツ合宿と関心高めるといふ。

(村山国子委員) そのほかにも……

(尾形武委員) 今度意見交換会やるから、それで。

(高木克尚委員長) ご意見踏まえてもう一度整理をさせていただきます。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) では、そのようにさせていただきます。

その他になります。

次回の委員会の日程をお諮りさせていただきたい。年明けになりますが、1月22日。全員が登庁すべき日程が入る予定されていますので、時間に関係なくこの日は予定をさせていただきたい。基本的には午後と。午前中で終わってほしいなという気持ちはあるのですけれども。

改めて皆様にお伺いしますが、今回は1月22日火曜日、手帳には午後1時半とお書きください。

【「了解」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) それでは、そのような日程でよろしく願いいたします。

以上で東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会を終了いたします。ご苦労さまでした。

午後2時03分 散 会

東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員長

高木 克尚